

2013.3.4

人間環境学部 長谷川ゼミ

2年 11H0506 新井梨那

**2012年度 リーディング・ユニバーシティ募金による  
「21世紀社会のリーダー育成」学生報告書**

**1. 活動内容**

私たち長谷川ゼミでは、ゼミを9チームに分け「日経ストックリーグ」という大会に参加しました。この大会では、株式上場企業を対象に参加者の視点で企業を調べていきレポートを作成します。自分たちの独自の視点で企業を調べることで、社会への興味・関心が高まりました。また、レポート作成のために、企業への訪問やアンケート送付など、さまざまな活動をしました。

実際に社会で働いている方々から直接お話をお伺いする機会は少なかったのも、とても貴重な経験になりました。実際に私たちが外に出て取材を行いアンケート調査をすることで、インターネットや書籍では知ることの出来なかった、今の社会の問題点や改善点などを知ることが出来ました。

レポート作成では、自分たちでテーマを設定しレポートを作り上げていく過程を考え、より自分たちの考えが伝わりやすいレポート作りに全力を注ぎました。授業の合間を縫って会議をし、休みの日や時間の空いている日には積極的に外に出て取材や調査を行いました。

取材や調査のやり方は、チームごとで考え、様々な方法を試しました。途中で本当にレポートを完成させることはできるのだろうかと思うこともありましたが、長谷川先生やチームのメンバー・ゼミのメンバーで力を合わせ9チームすべての班が無事にレポートを完成させることが出来ました。

**2. 今後への生かしかた**

私はこの大会に参加したことで得たものが3つあります。

1つ目は、1つの目標に向かってチーム一丸となって諦めずに努力することの楽しさです。1つの目標に向かって皆が力を合わせることで、1人では出来得なかったこと、考えられなかったことが、どんどん実現されていきます。自分の考えがレポートという目に見える形で実現されることは、とても楽しく、さらに頑張ろうと思えました。これから社会に出て行く私たちにとって、目標に向かって諦めずに努力することは、これから先にたくさんあると思います。しかし今回の経験を通して、社会に出ても諦めずに努力し続けることが出来ると思いました。たとえどんなに困難でも、その先にある達成感や自己成長、楽しさを知ることの出来た私は努力することが出来ます。この大会を通して私は、前よりも少し成

長できたのではないかと思います。

2つ目は、自分たちでテーマを設定し、考えることの大切さです。私たちの身の回りは大小様々な問題で溢れています。しかし、その多種多様な問題について考えることはあまりありません。けれども、今回私たちは「日経ストックリーグ」という大会に出るにあたりテーマ設定から自分たちで考えました。テーマには社会で問題になっていることや、あまり知られていない社会の仕組みなどが多く扱われます。このテーマ設定を行う過程を通して、社会での問題や身の回りの疑問などにきちんと向き合い調査を行います。ここで問題や疑問に向き合うことが出来るので、今まででは気づかなかった考え方やものの見方を得ることが出来ました。小さな問題や疑問でも、考えることによって様々な結果が生まれます。考えなければそのまま終わり、何も生まれなかったものが、考えることによってまったく違った結果につながる可能性を秘めているのです。当たり前のことなのかもしれませんが、今回の大会に参加し、改めて実感することができました。これからは身の回りにある様々な問題に興味を持ち、考えていきたいと思います。この大切さに気づくことができました。

3つ目に、社会に出ることへの期待を持たれたことです。実際に存在する企業を対象に調査を行うことで、社会で働く人々の生の声を直接聞くことが出来ました。なかには今抱えている問題を教えてくださった企業や、社会の目指すべき姿について熱くお話をしてくださった企業などもありました。お話を伺わなければ何も知らなかった社会について、考え、興味を持ち、期待をするようになりました。もちろん今回の調査だけで全てが理解できたわけではありません。まだまだ知らないことはたくさんあります。しかし私の知らない社会への挑戦という面では期待が膨らみました。今回の経験で少し社会人へ近づくことが出来たと思います。社会に出るまでの学生生活で、少しでも自己成長をし、社会に出てからも努力し続けられたらと思います。

今回の経験で私は、主に精神面で大きく成長できたと思っています。企業を対象としてレポートを作り上げているなかで、精神的に成長することが出来たのは、正直驚きでした。しかしチームメンバーと力を合わせて1つのレポートを完成させることができるまでに感じた、楽しさ、大切さ、期待はこれからの私の生き方や考え方に大きく影響するでしょう。私たち長谷川ゼミでは2013年度もストックリーグへの参加を考えているので、次の1年間で私たちがどれだけ成長できるのかがとても楽しみです。

今回得ることの出来た貴重な経験を、これからの更なる成長やあらゆる活動の中でいかしていきたいです。

以上

2013年3月5日

人間環境学部  
教授 長谷川直哉

2012年度リーディング・ユニバーシティ募金による  
「21世紀社会のリーダー育成」助成金成果報告

1. テーマ

サステナブル社会が求める企業像の提言 ～E(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)を基準とした企業価値のリコンストラクション～

2. 達成目標

サステナブル社会の実現に向けて、価値観の変換が迫られる昨今、資本市場における企業評価は依然として収益至上主義から脱却できていない。この活動は、一言でいえば投資を通じて未来社会のあり方を提言する活動でもある。国連が提唱する責任投資原則の考え方に沿って、E(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)という非財務情報を加味した企業価値の評価軸を策定し、実際に国内企業の再評価を行う。その成果を論文にまとめ、サステナブル社会が求める企業像として社会に提言する。論文は日経新聞主催の日経STOCKリーグへ応募し、第三者の評価を求める。

3. 活動プロセス

2012年度の活動内容は下表のとおり。

実施時期	活動内容
4～5月	・企業評価に必要な基礎知識の習得とケーススタディを通じた企業分析のトレーニング
6月	・チーム編成作業(4～5名/1チーム)、9チームを編成(学生数:46名) ・テーマの検討と絞り込み
7月	・日経STOCKリーグへのエントリー ・テーマの確定と評価軸の検討
8～9月	・夏季合宿においてチーム毎にテーマ、評価軸、分析手法等を発表 ・基礎データの収集(アンケート、文献調査)とデータ解析
10月	・投資候補企業の選定(100社程度)
11月	・投資候補企業に対するアンケート・ヒアリング調査
12月	・投資企業20社の選定、バーチャルトレードの開始 ・提出レポートの作成(8000字以内、図表別)
1月	・日経新聞社へレポート提出、論文集の作成
2月	・論文集の作成

#### 4. 成果内容

- ・人間環境学部長谷川研究会（ゼミ）に所属する46名が9チームに分かれて活動を実施。
- ・9チーム全てが活動内容をまとめたレポートを作成し、日経ストックリーグに応募。
- ・本ゼミより下記4チームが大学部門で入賞を果たす。（昨年に続き連続入賞）

##### ① 企業のナレッジ強靱化計画～ナレッジの相互補完がイノベーションを創出する！～

メンバー：3年 水宮将文（リーダー）、堀田紗友美、我妻裕紀  
2年 浦尾千尋、小野由貴 [登録番号 SL201540]

##### ② The importance of traceability～農産物の安全性と効率性に寄与する企業～

メンバー：3年 坂本 舞（リーダー）、渡部愛子、小林 信  
2年 曾田新平、阿世知貢大 [登録番号 SL201543]

##### ③ 日本の誇り高い技術力を糧にして 一循環型経済の形成～

メンバー：3年 飯田ひかり（リーダー）、石澤 遥、佐土原実咲  
2年 戸田翔大、中村光貴 [登録番号 SL201570]

##### ④ 私たちの目指す社会～フレキシブルワーキング～

メンバー：3年 佐藤由佳（リーダー）、斉藤朱音、富重絹代、播磨佳奈  
2年 新井梨那 [登録番号 SL201749]

#### 5. 入賞チームの全体像

##### 【大学部門の概要】

当ゼミより参加した9チームのうち4チームが入賞し、慶應義塾大学と並んで最多入賞となった。本学は昨年度に当ゼミが初参加初入賞を果たしたが、今年度も昨年度に引き続いて連続入賞を果たすとともに最多チームが入賞したことは大きな成果と考える。

昨年

参加チーム：610チーム（参加者 2,422名）

入賞チーム：25チーム

入賞率：4.09%

入賞大学：4チーム入賞 **法政大学**、慶應義塾大学

3チーム入賞 神戸大学

2チーム入賞 高崎経済大学

1チーム入賞 東京理科大学、中央大学、横浜国立大学、早稲田大学、同志社大学、会津大学短期大学部、小樽商科大学

大学部門賞：同志社大学

敢闘賞：小樽商科大学

審査員特別賞：東京理科大学

## 6. 参加大学について

- ・全国の著名な国公立・私立大学が参加している。
- ・首都圏での入賞校は、法政大学、慶応義塾大学、中央大学、東京理科大学、早稲田大学の私立大学4校と国立大学では横浜国立大学の1校のみ。

【大学部門参加校一覧】(赤字は入賞校)

### ◆国公立大学・国立高専

愛媛大学、大阪市立大学、**小樽商科大学**、尾道市立大学、鹿児島大学、金沢大学  
北九州市立大学、群馬大学、**神戸大学**、国立沼津工業高等専門学校、佐賀大学  
信州大学、**高崎経済大学**、千葉大学、東京学芸大学、東京経済大学、東北大学  
長崎県立大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、名古屋大学、新潟大学、一橋大学  
広島市立大学、山口大学、山梨大学、**横浜国立大学**、横浜市立大学、琉球大学、

### ◆首都圏私立大学

青山学院大学、亜細亜大学、跡見学園女子大学、江戸川大学、関東学院大学、  
**慶應義塾大学**、駒澤大学、埼玉学園大学、淑徳大学、城西大学、西武文理大学、  
専門学校東京スクールオブビジネス、創価大学、大東文化大学、拓殖大学、玉川大学、  
千葉科学大学、**中央大学**、帝京大学、東海大学、東京経済大学、東京都市大学  
**東京理科大学**、文京学院大学、**法政大学**、武蔵大学、明海大学、明治大学、安田女子大学  
立教大学、立正大学、麗澤大学、**早稲田大学**、和洋女子大学

### ◆中京圏・関西圏私立大学

愛知淑徳大学、愛知大学経済学部、大阪経済法科大学、大阪国際大学、大阪電気通信大学、  
関西国際大学、関西大学、関西学院大学、岐阜聖徳学園大学、京都外国語大学  
京都産業大学、神戸学院大学、中京大学、**同志社大学**、中村学園大学、名古屋学院大学、  
名古屋商科大学、阪南大学、名城大学、立命館大学、龍谷大学、流通科学大学

### ◆その他私立大学

**会津大学短期大学部**、鹿児島国際大学、金沢星稜大学、河北北方学院、曲阜師範大学、  
熊本学園大学、久留米大学、群馬県立女子大学、國學院大學北海道短期大学部、  
国際教養大学、札幌学院大学、四国大学、西南学院大学、筑波学院大学、東北学院大学  
徳島文理大学、函館大学、日立工業専門学校、広島経済大学、広島工業大学、  
広島修道大学、福岡大学、福山大学、松本大学、松山大学、宮崎産業経営大学、  
山梨学院大学、ユービック情報専門学校、流通経済大学、淮陰師範学院

## 7. 助成金の効果

- ・助成金交付という形で大学当局から一定の評価を得たことで学生に責任感が芽生え、昨年以上の取り組み意欲を持って本プロジェクトを推進することができた。
- ・助成金によってアンケート調査やヒアリング調査をより広汎かつ綿密に行うことが出来たことで、各チームの成果物の質が向上した。
- ・368頁に及ぶレポート集を作成し調査に協力して頂いた企業に配布することで、本学学生に対する評価を向上させる機会を提供できた。

- ・4チーム入賞によって、本学学生の「質」の高さを対外的にアピールすることができた。
- ・ヒアリング調査に協力頂いた企業から入社を勧誘されるなど、本学学生の就職面での評価を高めることにも貢献した。

#### 8. 今後の展望

- ・2013年度も当ゼミでは引き続き日経ストックリーグに参加し、今年度以上の成果を目指して活動する予定である。
- ・調査に協力して頂いた企業をゼミ等で招聘して意見交換を行うなど、引き続き関係強化に取り組む。
- ・本プロジェクトを通じて企業等による本学学生の対する評価は確実に高まっており、就職など付随的効果も期待できる。
- ・2013年度も本助成金の募集があれば、改めて応募したいと考える。

本助成金を通じて充実した教育活動を行うことによって、成果についても対外的に高い評価を得ることが出来たことを改めて御礼申し上げる。

以上